A 石匠館

【問 合 せ】八代市東陽石匠館　TEL(0965)65-2700
【所 在 地】八代市東陽町北98-2
【開館時間】午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)
【料　　金】大人300円　高・大学生200円　小・中学生100円
※団体20名以上割引あり
※障がい者(身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方)及びその介助者無料(手帳の提示要)
【休 館 日】月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日

一世紀以上の風雪に耐え、今も残る21の石橋。当時の石工たちの驚くべき知恵と技が息づく石の文化を蘇らせ、新しい地域文化を創造しようと生まれたのが「石匠館」です。地元で採れる凝灰岩の壁面と丸屋根。世界的建築家木島安史氏の設計です。館内では「種山石工」の歴史や、全国の石橋の資料が多数展示され、また当時の石工たちの石材運搬の工夫を体験できるコーナーもあります。

B 東陽交流センターせせらぎ

【問 合 せ】東陽交流センター せせらぎ
TEL(0965)65-2112
せせらぎホームページ
http://www.toyo-seseragi.com
【所 在 地】八代市東陽町南1051-1
【営業時間】
◆かけ流し温泉 夢あかり
10:00～21:00(受付終了20:30)
◆野菜レストラン さんふるる
平日 11:00～15:00、
17:00～21:00 ※オーダーストップ19:30
土・日・祝日 11:00～21:00 ※オーダーストップ20:00
◆菜摘館　7:30～18:00
【定 休 日】毎月第2水曜日(但し祝日の場合は翌日)

「自然・癒し・食」をテーマとし、「ゆったり」そして「やすらぎ」の空間施設は天然温泉、野菜レストラン及び地元農家直売の野菜販売所等がある複合施設です。「野菜レストラン さんふるる」の目玉は東陽に伝わる味を基本に地元で採れる野菜の食べ放題、施設2階の「かけ流し天然温泉夢あかり」はアルカリ性の泉質であることからお肌がすべすべに。家族風呂にも露天風呂が完備され、横を流れる河俣川や山々の美しい自然の風景が憩いの空間をさらに演出します。東陽ならではのしょうがソフトクリームやしょうがにこだわったお菓子などが楽しめます。

C 美生地区の生姜の棚田

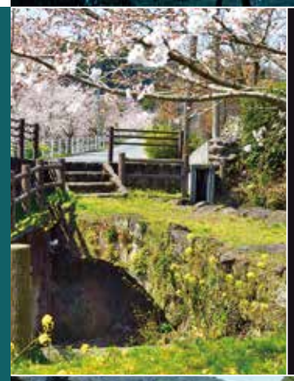
地形を利用した棚田には水田ではなく町の特産品「生姜」が植えられています。美しい石積み棚田の風景は「日本の棚田百選」にも選ばれています。

東陽町の特産品

東陽町の基幹作物であり、特産品であるショウガ。多くの農家で栽培されています。中でも昭和初期ごろから栽培され始め、各農家の努力で生まれた「氷川生姜」は、ブランドとして知られています。香辛料として用いられるだけでなく、薬用としても広く使用されているショウガは、万病に効果があるといわれています。

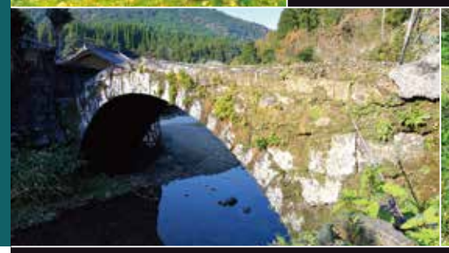
【問合せ】**八代市東陽支所地域振興課**　〒869-4301 熊本県八代市東陽町南1105-1
TEL:0965-65-2111　FAX:0965-65-3272　E-mail:to-chiiki@city.yatsushiro.lg.jp

参考資料:熊本日日新聞社発行「熊本の目鑑橋345」　監修:上塚 尚孝(前東陽石匠館館長)　写真提供:上塚 寿朗



熊本県八代市 東陽町

石橋の郷



種山石工

江戸中期から大正の中頃まで肥後の八代種山村(現熊本県八代市東陽町)を拠点に活躍した石工集団。一説には長崎から移り住んだ林七が祖と言われるが、史実が残らず、墓石には「俗名林七 天保八年没」と刻されているのみ。

種山石工衆は記録に表われた数は約50名。他国へ行くと「肥後石工」と呼ばれている。架設した著名な目鑑橋は美里町の霊台橋や山都町の通潤橋。

石橋造りの技術者集団 種山石工

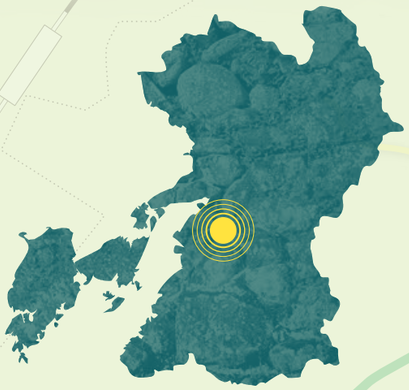
橋本勘五郎

建設中の谷川橋(昭和4年)

橋本勘五郎(丈八)

種山石工の祖・林七の孫として文政5(1822)年種山に生まれた。長兄宇助・次兄宇市は野津石工岩永三五郎の門弟だが、丈八は30歳頃までの記録不明。嘉永2(1849)年御船川橋架設碑に兄二人と共に名が残る。その後は通潤橋碑に石工頭宇市の次に副頭として刻名されている。明治改元頃に橋本勘五郎と改名。直後明治政府に招かれ東京に神田筋違目鑑橋(のちの万世橋)などを架設、帰郷後は県内に明八橋・明十橋・永山橋・高井川橋・下鶴橋を架け、福岡県八女市の洗玉橋架設が最後。明治30(1897)年没、75歳。

石橋の郷めぐり



アクセス

九州自動車道
八代ICから約20分
松橋ICから約30分
宇城氷川スマートICから約10分

公共交通機関
JR鹿児島本線有佐駅からバス約16分
JR鹿児島本線有佐駅からタクシー約10分
九州新幹線新八代駅からタクシー約20分

D 若宮神社のひねり灯籠

竿(下部)の部分は細くくびれてバランスが凄い。傘の部分には龍の彫り物があるけれど、惜しくも首の部分が欠けている。嘉永4(1851)年、種山石工の一人、橋本勘五郎の作。

F 菅原神社のひねり灯籠

竿(下部)に捻りの技法を入れた変わり種の石灯籠。嘉永7(1854)年、種山石工の一人、文八の作。

E 権三別当堂の石垣

きめ細やかな肌の切り石積みの石垣、熊本城の武者返しのように反り上がっている。作者は不明だが、技術の高さから橋本勘五郎か、石本文八か、弟の栄七が有力、築造年代も嘉永時代と推測されている。

C 美生地区の生姜の棚田

9 鶴下村中橋

■橋長 13.3m　橋幅 2.23m　径間 9.1m

春ならばウメ、晩秋なら渋カキ。ウメとカキと顔を突き合わせたような鶴下の村中橋を渡ると江戸時代の庄屋・黒木止善館(閉館中)あり。

10 蓼原橋

■橋長 20.14m　橋幅 1.98m　径間 11.2m

河俣川へ流れ込む美生川に架かる4橋の上から2番目の橋。頑丈な石造りのアーチは、150年経過しても表情一つ変えず沈思黙考。

11 美生橋

■橋長 8.65m　橋幅 3.52m　径間 7.24m

美生川の上流に架かる。この界隈のショウガは掌ほどの広さで玉も大きい。美生橋近くで住民がショウガを洗う姿は仙崖の墨絵の世界。

12 谷川橋

■橋長 21.38m　橋幅 3.55m　径間 14.91m

その昔、お宮参りの子どもが丸太を並べた橋を怖くて渡れず、遠回りした不便さの解消策として谷川橋を架設。昭和4年工事中の写真現存。

13 笠松橋 市指定有形文化財

■橋長 22.75m　橋幅 2.75m　径間 14.2m

輪石は丁寧な加工で明治以降の作と思いたいが、野面積みの壁面は江戸時代だろう。一体いつ頃の架設か判断が難しい。

1 新開橋 市指定有形文化財

■橋長 2m　橋幅 2.2m　径間 1.1m

里山へ上り下りする細い道へ架かる小さい石造りの橋。形は上が尖ったアーチで、石材には黄緑色の苔がびっしりと生えて鮮か。

2 重見橋

■橋長 9m　橋幅 3.2m　径間 6.5m

東陽町内唯一の信号機がある交差点近くの小さな公園に平成元年に移設した橋。もとは町内の重見地区を流れる小浦川に架かっていた。

3 松山橋 市指定有形文化財

■橋長 8.55m　橋幅 1.82m　径間 6.97m

重見地区の奥座敷に架かっている扁平アーチの橋。石材に白い苔が付着し、澄んだ川面に映って「一幅の絵」となる。

4 仁田尾橋

■橋長 9.71m　橋幅 3.03m　径間 7.43m

小浦地区にいくつも架設されためがね橋の一つ。すぐ上流に架設された館原橋を潜った小浦川の流れは、続けて同規模の橋を潜る。

14 鹿路橋 市指定有形文化財

■橋長 20.36m　橋幅 2.77m　径間 13.65m

氷川の支流・河俣川最上流のめがね橋は意外と大きい。橋周辺は水音高く、渓谷あり。若葉の頃・紅葉の頃共によし。棚田が近い。

15 鍛冶屋下橋 市指定有形文化財

■橋長 7.03m　橋幅 2.46m　径間 3.92m

種山石工の祖・林七の作と話が伝わっているが確証なし。昔は対岸からも橋の姿が望めたが氷川沿岸整備後は見えなくなった。

16 鍛冶屋中橋 市指定有形文化財

■橋長 4.36m　橋幅 2.67m　径間 2.74m

林七が架けたと伝わる橋。石匠館の裏山へ登るために、西原川へ架設されためがね橋。橋裏を観察すると珍しく輪石は偶数列。

17 鍛冶屋上橋 市指定有形文化財

■橋長 4.1m　橋幅 2.64m　径間 1.27m

近年、この界隈はイノシシが出没するので、橋に行くには防護柵を開けて行かねばならない。ほぼアーチ石だけの構造で頑丈な造り。

18 大久保自然石橋

石工勘五郎は、晩年に現八女市に洗玉橋を架設。当時の北川内村長へ「自然石で何橋か架けた」と答えている。これはその中の一つか。

5 館原橋

■橋長 7.25m　橋幅 2.32m　径間 5.93m

近くに由緒ある武将の館でもあったのかと思われがちだけれど、何もそんな話は残っていない。すぐ上流の高い橋の影が映り気の毒。

6 岩本橋 市指定有形文化財

■橋長 4.26m　橋幅 1.21m　径間 3.01m

小浦地区から内ノ木場地区への急坂を登り始めると、すぐ左下の小川に架かる橋。小川の先の畑へ向かうには斜面の道だけに、橋も斜めに構築。

7 今屋敷橋

■橋長 7.37m　橋幅 2.48m　径間 6.3m

種山地区から八代の妙見祭見物への近道は小浦地区を通る。近年この道が整備され、低位置に架かる今屋敷橋は見おろされた感じ。

8 山口橋

■橋長 10.97m　橋幅 1.59m　径間 11.68m

県道25号線を河俣川沿いに逆上ると鶴の集落あり。右手に美生川に架かる単一アーチ橋が見える。これぞ山口さんちへ渡る山口橋だ。

19 五反田水路橋

■橋長 2m　橋幅 10m

勘五郎の次男弥熊は、氷川から導水して水車を回し精米業を営んだ。水車を回した水は再度氷川へ戻すが、その水路の天井は野面石のアーチ構造。

20 椎屋橋

■橋長 7.04m　橋幅 3.98m　径間 3.66m

蕨野の細い川が氷川へ流れ込む地点に、几帳面な石造りのめがね橋が架かる。石の加工具合から大正時代の作だと推測できる。

21 平山橋

■橋長 1.8m　橋幅 1.8m　径間 1.3m

国道443号を氷川沿いに逆上り、椎屋橋の先右手の坂を逆方向に上ると細い流れに小規模アーチあり。「こんな処にも…」と恐れ入る。

G 白髪山天然石橋

言い伝えでは、昔、白髪山に住む神様が山を下りるとき、巨岩が邪魔で「エイッ」と足蹴にしたらポッカリ穴があき、アーチ状の岩が残ったそうだ。晩秋周辺は錦秋絵巻。 市指定天然記念物